

令和2年度主要施策の成果のあらまし

区は、大田区基本構想で掲げた将来像「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」を実現するため、令和2年10月に「新おおた重点プログラム」を策定し、「地域力」と「国際都市」を中心に、子育て、保健・福祉、まちづくり、産業振興、地域力、環境など、あらゆる分野の施策を推進しています。ここでは、令和2年度の主要施策の取組内容のまとめをご案内するとともに、特に主要な事業について、いくつかの実施状況をご紹介します。

1 「新おおた重点プログラム」における個別目標ごとの事業費（令和2年度決算額）等のまとめ

個別目標	主要施策数 (事業数)	取組の数	事業費 (令和2年度決算額)
1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします	21	61	43,322,676 千円
1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくりま	21	48	78,777,139 千円
1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくりま	9	25	3,217,539 千円
2-1 水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現しま	23	56	8,171,025 千円
2-2 首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創りま	9	15	941,175 千円
2-3 ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造しま	17	35	2,483,162 千円
3-1 地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現しま	17	40	453,546 千円
3-2 私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です	5	9	3,028,036 千円
3-3 区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めま	5	24	2,936,140 千円
合計	127	313	143,330,438 千円

※事業費については、個々の事業ごとに決算額を千円未満四捨五入し、集計しています。

【参考】
おおた重点プログラム（令和元年度）
主要施策数（主な事業数）：117
取組の数：293

2 主要な事業の実施状況

●個別目標 1-1

未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします

産後の家事育児の負担軽減を図るため、令和2年10月から、生後6か月までの乳児を育児中の世帯にヘルパーを派遣し、家事援助や育児の補助支援をする事業を開始しました。さらに、令和3年2月から、保育サービスを利用してない2歳までの乳幼児を育児中の世帯を対象とする事業拡充を行いました。

児童・生徒への感染予防策の徹底等、学校臨時休業から教育活動が再開した後、新たに発生した教員の業務の軽減を図るため、学習指導サポーターを小中学校に配置しました。



大田区産後家事・育児援助事業「びよびよサポート」チラシ



●個別目標 1-2

誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくりま

新型コロナウイルス感染症対策として、区内2,500箇所以上の医療機関等に対し、医療用マスク、医療用ゴーグル、アルコール消毒液等を配付したほか、PCR検査の需要拡大に対応するため、医師会と連携してPCR検査センターを設置しました。

生活再建・就労サポートセンターJOBOTAでは、新型コロナウイルス感染症等による新規相談件数の急増と感染拡大防止に対応するため、支援員の増員や分室の開設を行いました。

生活再建・就労サポートセンターJOBOTA
(分室)



JOBOTA チラシ

●個別目標 1-3

高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくりま

高齢者等の権利擁護の促進を図るため、大田区社会福祉協議会おおた成年後見センターと連携し、成年後見制度利用促進中核機関を設置し、対象者の早期発見や支援に結びつける支援体制を整備しました。

また、新型コロナウイルス流行下においても高齢者が心身の健康を維持することができるよう、自宅でできるフレイル予防の取組などを区報やホームページ等により周知しました。特に、区報では「高齢者支援特集号」を発行し、各種介護予防事業やフレイル予防の取組案内、高齢者の社会参加の紹介などを広報しました。



一般介護予防事業(公園体操)を行う様子

●個別目標 2-1

水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

池上駅の橋上駅舎化工事が完了したことに伴い、池上駅周辺の都市基盤施設に関して、鉄道事業者と協議・調整しながら、検討を行ったほか、交通の変化を把握するため、交通量・歩行者流動調査を実施しました。

都市防災機能の強化、安全で快適な歩行空間の確保、良好な都市景観の創出に寄与するため、令和元年度に策定した「大田区無電柱化基本方針」に基づき、「大田区無電柱化推進計画」を策定しました。



無電柱化優先整備路線
主要区道23号線(本門寺新参道)



橋上駅舎化された池上駅

●個別目標 2-2

首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

「新産業創造・発信拠点」の形成に向けて、第一期事業者等と連携し、着実に整備を進め、羽田イノベーションシティが7月3日にまち開きし、9月18日から本格稼働となりました。また、区施策活用スペース「HANEDA×PiO」がオープンし、テナントゾーンには8社12区画の入居が決定するなど、多様な主体や人々が交流する場づくりを進めました。

大田区で暮らす外国人を身近に感じてもらうため、国際交流ボランティアが地域で活躍する外国人を取材した記事を「隣の外国人」として計4回ホームページに掲載しました。



羽田イノベーションシティ

区施策活用スペース「HANEDA×PiO」
(ホール)



●個別目標 2-3

ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します

商店街が実施する、プレミアム付地域商品券事業や、商店街新型コロナウイルス感染症対策支援事業等の補助を行うことで、外出自粛等により減退していた消費や新しい生活様式への対応を喚起するとともに、販売促進の取組を支援しました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けている区内中小企業・小規模事業者に対し、金融機関からの借り入れに係る利子を全額補給する融資あっせんを約3,700件行ったほか、中小企業の新製品・新技術の開発支援として、20件に対して助成を実施しました。



石川台希望ヶ丘商店街



ぶらもーる梅屋敷商店街
「コロナに打ち勝ち、がんばるマップ」

●個別目標 3-1

地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現します

災害種別による避難所開設の有無を分かりやすくするため、ピクトグラムで表示する災害種別避難標識を区立小中学校等91か所に設置したほか、避難所に感染症予防や個人スペース確保のための備蓄品を配備し、学校防災活動拠点や福祉避難所において感染症を考慮した避難所運営訓練を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大の中においても、外国人区民が安心して暮らせるよう、支援制度の情報提供や各種給付金の申請補助を行うとともに、多言語通訳タブレットを18台増設し、計25台で相談体制の拡充を行いました。



災害種別避難標識
(大森第四小学校)

ふれあいはすぬまにおける訓練の様子



●個別目標 3-2

私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です

地球温暖化対策や低炭素ライフスタイルへの転換の取組気運を醸成するため、気象予報士である依田司氏を大田区地球温暖化防止アンバサダーに任命し、区ホームページやSNSで情報発信に取り組んだほか、「おたクールアクション」のPR動画や「おたクールアクション実践ハンドブック」を作成しました。

不燃ごみに含まれる資源物のピックアップ回収や、粗大ごみの再資源化を実施したほか、古着の行政回収モデル事業において、大森、調布、梶谷・羽田、蒲田の4地区の回収拠点で年48回実施し、約46,000kgを回収しました。



「おたクールアクション」PR動画 サムネイル画像

●個別目標 3-3

区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めます

新型コロナウイルス感染症の問題に対応するため、官学連携プログラムとして東邦大学医学部に「地域連携感染制御学講座」を設置し、区民公開講座や大田区議会、大田区自治会連合会、大田区青少年対策地区委員会との意見交換等を実施しました。

田園調布せせらぎ公園内の憩いの場、区民の地域活動や文化活動の拠点として、田園調布せせらぎ館が竣工、開館しました。設計は国立競技場の設計にも携わった建築家・隈研吾氏によるもので、田園調布せせらぎ公園とともに区の新たなランドマークとなることを期待されています。



「地域連携感染制御学講座」の
設置に係る発表記者会見

田園調布せせらぎ館

